構造改革特別区域計画

1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

防府市

2 構造改革特別区域の名称

防府どぶろく特区

3 構造改革特別区域の範囲

防府市の全域

4 構造改革特別区域の特性

(1) 地勢

防府市(以下「本市」という。)は、山口県の南部、瀬戸内海沿岸のほぼ中央にあり、東西20.1km、南北20.4km、総面積は189.37km²である。北部には中国山地が連なり、市の中央部を流れ瀬戸内海に注ぐ一級河川佐波川を挟んで、東には市の最高峰大平山が、西には右田ヶ岳が対照的にそびえ、南部には県下最大の平野が広がっている。

また、海上の拠点として、重要港湾三田尻中関港を有するとともに、山陽自動車道、国道2号線、JR山陽本線などの陸上交通の主要幹線が市域を横断しており、恵まれた交通環境にある。

(2) 人口

本市の総人口は、現在の市域となった昭和30年は96,821人であり、昭和40年までは減少傾向にあったものの、その後人口増に転じ、平成7年の国勢調査では118,803人となった。以降、減少傾向にあるが、ほぼ横ばいで推移しており、平成30年には114,601人となっている。

しかしながら、将来的には人口減少が見込まれていることから、少子高齢化対策や観光・交流人口の拡大を図っていく必要がある。

(3) 産業

平成27年国勢調査による本市の産業別就業者総数は、57,524人となっている。その割合は第1次産業が2.5%、第2次産業が31.0%、第3次産業が64.3%で、第3次産業就業者の割合が増え続けている。

農業に関しては、平成27年農林業センサスによると、農家戸数2,061戸、就業人口(販売農家)1,321人となっている。米が本市の基幹作物となっており、田の経営耕地面積1,042ha、米の生産量5,630t、主食用米のヒノヒカリ、ひとめぼれ等が主な作付け品種である。温暖な瀬戸内海型気候に属しており、水利は佐波川の豊かな水資源の恩恵を受けるとともに、生産地と

消費地の距離が近い立地条件を活かし、水稻を中心に、麦、野菜、果樹、畜産等を組み合わせた多様な農業が営まれている。また、農業技術取得のための研修機関である山口県立農業大学校があり、卒業生も多く活躍している。

(4) 観光

観光客は、年間約200万人以上が訪れているものの、通過型の観光が主流となっている。

観光資源は、アウトドアアクティビティや景観を楽しむ自然資源、日本で最初に創建された「防府天満宮」、1200年の歴史と100体を超える仏像が拝観できる「周防国分寺」、25,000坪の広大な回遊式日本庭園「毛利氏庭園・毛利博物館」、4,000株のアジサイが咲き誇る「東大寺別院阿弥陀寺」等の歴史・伝統文化資源が多く存在する。

これらの観光資源は広いエリアに点在しており、観光客の観光動線に含まれていない場所や、認知度が十分に高くない資源もある。

5 構造改革特別区域計画の意義

本市に訪れる観光客の96%以上が通過型の観光であることから、多種多様な観光資源の情報発信を強化し、それらの資源を魅力的に組み合わせるとともに、まだ眠っている地域資源を掘り起こし、さらなる観光誘客と滞在時間の延長を図っていく必要がある。

このため、「ほうふ」が一つになった観光誘客、コンベンション誘致の推進に向けて、(1)「歴史のまち・防府」の魅力発信や「オール防府」での売り込みによる新しい誘客プロモーション、(2)大規模集客イベント開催の促進、自然やサイクリングを活かした、新たな賑わいとツーリズムの創出、(3)海外旅行博覧会でのブース出展、Wi-Fi環境の整備促進、市内事業者等を対象とした「笑顔のおもてなし研修」によるインバウンド誘客など、「ほうふ観光元年」として新しい観光振興に取り組んでいる。

さらに、本特例措置を活用することによって、本市でしか味わえない新たな食の資源が加わり、既存の多種多様な観光資源と組み合わせることで、「食」・「観光」のPR効果に好影響をあたえ、市内の周遊性が高まり、観光客の滞在時間延長や交流人口の増加による地域の活性化が期待できる。

6 構造改革特別区域計画の目標

本市に訪れる観光客は、通過型の観光が主流となっていることから、滞在時間の延長に訴求力のある、本市ならではの「食・グルメ」の魅力の向上に向けて、民間活力を生かしていくことが必要である。

本市の地域特性と特例措置の活用により、「天神はも」や「華城(はなぎ)春菊」などの地元ブランド食材の他に、防府でしか味わえない「濁酒」という新たな食の資源が加わる。

これによって地産地消の一層の促進はもちろん、既存の観光資源との相乗効果が図られ、本市の魅力を広く情報発信することを通じて、地域の活性化や交流人口の拡大を目指す。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

本計画に基づき、令和2年度に濁酒の製造が農家レストランを営む1軒で開始される見込みである。第1号となる製造者は、自らのレストランを拠点として濁酒を提供するだけでなく、濁酒の魅力や製造方法等について「講習会」、「イベント」を積極的に開催し、濁酒に関する認知を獲得していく意欲的な計画を立てている。この取組により、次に続く製造者を創出するという横展開が期待できる。

また、本計画の実施により、農家レストランや農家民宿で提供される濁酒や、防府産の食材を使った食事を味わい、市内にある様々な観光地へ訪れてもらうことで、滞在時間の延長、交流人口の増加による地域の活性化が期待できる。

さらに、滞在時間の延長が活発な消費活動につながることで、経済的な波及効果にも期待できる。

【経済的社会的効果の目標指標】

項目	令和元年度	令和2年度	令和5年度
自家製による酒類製造件数	0件	1件	2件

8 特定事業の名称

707(708)特定農業者による特定酒類の製造事業

※ 別紙 構造改革特別区域において実施又は実施を促進しようとする特定業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規制の特例措置の内容

別紙

1 特定事業の名称

707(708) 特定農業者による特定酒類の製造事業

2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

構造改革特別区域内において、酒類を自己の営業場において飲用に供する業(民宿、料理飲食店など)を営む農業者(以下「特定農業者」という。)で、米(自ら生産したもの又はこれに準ずるものとして財務省令で定めるものに限る。)を原料としたその他の醸造酒(以下「濁酒」という。)を製造しようとする者

3 当該規制の特例措置の適用の開始の日

本構造改革特別区域計画の認定を受けた日

4 特定事業の内容

(1) 事業に関与する主体

上記2に記載の者で、酒類製造免許を受けた者

(2) 事業が行われる区域

防府市全域

(3) 事業の実施期間

上記2に記載の者が、酒類製造免許を受けた日以降

(4) 事業により実現される行為や整備される施設

上記2に記載の者が、米(自ら生産したもの又はこれに準ずるものとして財務省令で定めるものに限る。)を原料とした濁酒の提供を通じて、地域の活性化を図るために濁酒を製造する。

5 当該規制の特例措置の内容

当該規制の特例措置により、構造改革特別区域内において、特定農業者が、米(自ら生産したもの又はこれに準ずるものとして財務省令で定めるものに限る。)を原料として濁酒を製造する場合には、酒類製造免許に係る最低製造数量基準が適用されず、酒類製造免許を受けることが可能となる。

これにより、濁酒という新たな食の資源が加わり、農家レストラン等で地元産食材と併せて提供することで地産地消の推進に寄与する。また、濁酒を求めて本市へ訪れる来訪者等が、既存の観光地へ足を運ぶきっかけにつながり、滞在時間の延長、交流人口の増加による地域の活性化が図られると考える。

なお、当該特定事業により酒類の製造免許を受けた場合も、酒税法の規定に基づき、酒

税の納税義務者として必要な申告納税や各種記帳義務が発生するとともに、税務当局の検査及び調査の対象とされる。

本市は、無免許製造を防止するために制度内容の広報周知を行うとともに、特定農業者が酒税法の規定に違反しないよう、指導及び支援を行う。